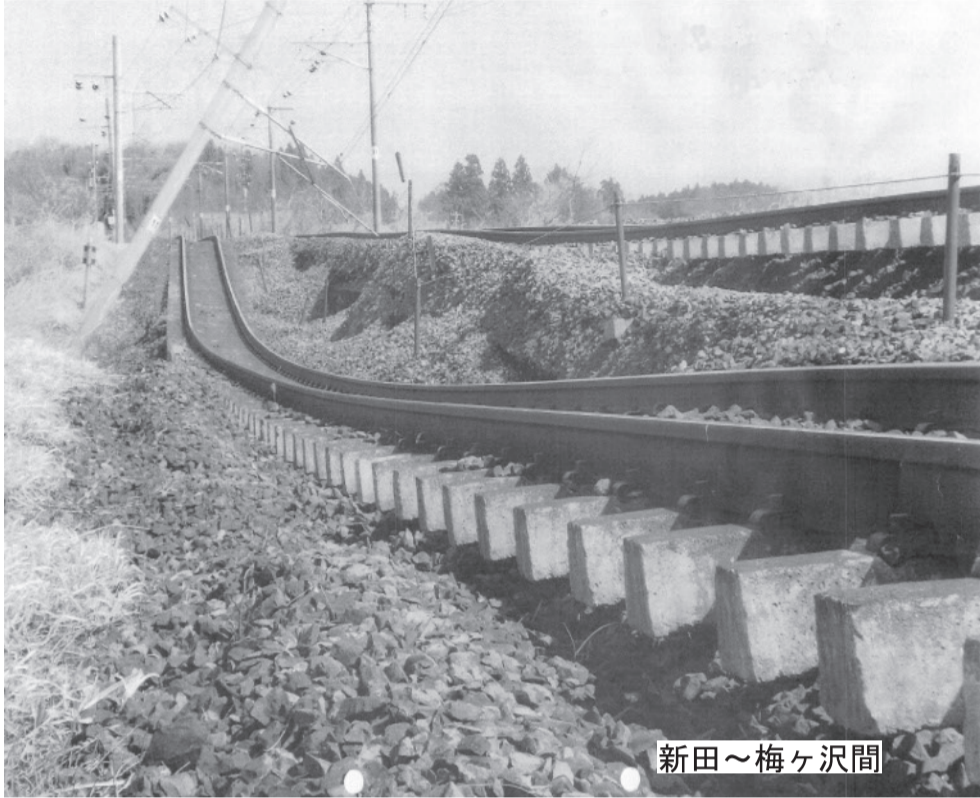


東日本大震災で被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます

支援の取り組みに全力を！

東日本大震災で災害対策本部設置



新田～梅ヶ沢間

3月11日に発生した東日本大震災は各地に未曾有の被害をもたらしました。2週間以上たった今も、多くの方が依然として家族や親類の安否確認が取れない中で避難所生活を余儀なくされるなど、被災地では不安な日々が続いています。一方、各地での被災状況も徐々に明らかになりつつある中で、支援の取り組みも始まっています。

国労は震災後の14日に本部・東日本本部合同の「災害対策本部」を設置し、組合員・家族の安否確認はもとより、被災状況の把握、同時に被災地支援の取り組みを決定し、現地の情報収集に全力をあげてきました。

とりわけ被害の大きかった地方本部からの組合員安否確認報告（3月24日現在）では、仙台地本で全組合員の安否確認がとれたものの、水戸地本管内では現在も1名が安否不明、また

弔電

熊谷秀三さんの突然の訃報に接し、心から哀悼の意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

鉄道マンとして、その職責を最後まで全うされた熊谷さんの思いをしっかりと受けとめ、安心・安全な鉄道輸送を守り発展させるため、手と手を取り合っ、困難を乗り越えてまいる所存です。

残されたご家族の皆様におかれましては、厳しい生活が続き、心身ともにお疲れのこととは存じますが、健康に留意され、希望を持って生きていかれることを心からご祈念申し上げます。

2011年3月22日
国鉄労働組合東日本本部
執行委員長 高野 苗実

盛岡地本では、3月20日になり安否確認の取れていなかった熊谷秀三さん（気仙沼地域分会所属・ジャスター）に出向し陸前高田駅に勤務中）の死亡が、残念ながら確認されました。

さらに、福島第一原発の事故も含めて被害は拡大し、多くの組合員・家族も被災しました。

こうした状況の中で本部に集約される支援物資の数も日に日に増え、全国からの支援の輪は広がっています。依然として原発が予断を許さない中で、復旧に向けては長い取り組みとなります。引き続き、支援の取り組みに集中を！



水戸地本へ搬入

「対策本部」が水戸地本へ

3月17日、災害対策本部は緊急支援の取り組みの第一便として、地震発生以降陸路が復旧した水戸地本へ搬入されました。



日立社宅被害状況

本に対して鈴木本部総務・財政部長、松井東日本書記長の2名で支援物資を届けました。

引き続き、3月24日、緊急支援の第二便として、盛岡・仙台両地本管内で支援物資の手渡しと激励の取り組みを行いました。（詳細は次号）

- 現状での取り組み内容**
- 3月14日 ●「東日本大地震災害対策本部」の設置
 - 東日本大震災状況報告
 - 状況報告・事務所の常駐体制
 - 3月15日 ●カンパ等の取り組み
 - カンパ・救援物資
 - 3月18日 ●支援の取り組み
 - 救援物資
 - 3月20日 ●通勤経路等喪失の社員の出勤を含む勤務の取り扱いの調査・報告



(組合員の購読料は組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5
交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 高野苗実
編集責任者 伊藤隆夫

No. 710 定価 20円

2011年

3月 25日

東日本大震災 特集

<http://www.e-nru.com>



携帯用ホームページはこちらのQRコードから

復旧に向け全力をあげていく

—仙台発—



新幹線高架損傷

3月11日に起きた大震災は、仙台地本内も甚大な被害をもたらした。特に観測史上最大の津波により沿岸部全域において犠牲者が出る未曾有の大惨事となった。

JR各線でも、仙石線や気仙沼線で列車が津波に流される被害や線路や駅舎の流失、新幹線、貨物列車の脱線、電柱の倒壊、駅舎の天井落下や壁の崩落などの被害が報告されている。それらの被害により、仙台支社管内の路線は一部を除き、運行の目処は立っていない。

大震災後、仙台地本は組合員、家族の安否確認を最優先で進め、3月20日、組

合員全員の安否を確認した。しかし、家族の犠牲や家屋の流失も報告されている。また、未だ家族と連絡が取れない組合員もいる。

仙台地本が入る「こくろう会館」内部も震災による被害が大きく、19日に機関としての機能を回復したが、通信機能の破損により100%の復旧とはなっていない。

当面、被害状況報告の集中と被災者の救援、勤務や復旧にむけた支社への対応など復旧に向け全力をあげていく。



流された車や家屋が線路を覆う（仙石線中野栄～多賀城）

被災地メール日より 3月13日着信から

@仙台地本

被災後初めて職場に行きました。社員の安否はほぼ確認しましたが、やはり石巻、亘理、名取（仙台空港付近）などの津波被害があった家族の安否が分からない状態です。

台車職場は台車が横倒し、機械も破壊状態で入れの状態ではなく、3日間は待機、職場から連絡が来たら（携帯が圏外など関係なく）その時指示するということでした。車体の職場は壁も崩れていました。新幹線の状況は、仙台駅付近で脱線した車両はまだ復旧していません。東仙台から幹線まで（約8キロ）は約30本の電柱が折れるか倒れていました。また着発は（幹線から高架が上がるころ）の

直径10メートルの柱は半崩壊。入出区も不可能です。復旧には相当期間掛かりそうですね感じました。

@水戸地本

家や家族を失った者も多数出ています。現在、確認出来ている状況は、水戸線は鉄橋が崩落しています。水郡線は線路が陥没し、ぐにやぐにやになっていて復旧に相当日数がかかるのではとの状態です。設備も相当破壊され、水戸駅はホームが崩れ、勝田駅は駅舎の天井が落



復旧作業（常磐線の水戸～勝田間）

@盛岡地本

ちている状態。土浦以北は線路全体が曲がり、踏切も無遮断状態です。いわき以北は、原発の避難勧告もあり情報はメディアからだけです。

被害が出ている組合員のいる地区は、福島原発第一、第二の避難勧告を受けている所でもあり、無事に避難していれば良いのですが。残念ながらこれからは被害は増えると思います。

運転関係の状況は、津波の激しかった大船渡線気仙沼線釜石～宮古間に二両ありますがどのような状況にあるかは、道路も不通、辛い

じて通ることができません。救援用の車専用のためしばらくは、ません。盛岡車両センターのTさんの実家が田老町にあり姉と叔父さんが行方不明とのことです。また同センターのEさんは宮古から通勤しています。家が津波の被害にあっています。余震も続いています。少しづつ本線沿いはライフラインが復興しつつあります。私も職場から50キロほど離れているので自宅待機しています。ガソリン不足が続いているためです。青森、



復旧作業（常磐線の水戸～勝田間）

八戸は大丈夫とのこと。早い復旧に向けてがんばりましょう。

医療の進化にあわせた、アフラックのいちばん新しい「がん保険」です。

生きる気持ちに、本気で応える
アフラックのがん保険



（引受保険会社）

「生きる」を創る。
Affac

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
東京第二法人営業部
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

募集代理店

アベニール 株式会社

TEL 03-3437-6810
FAX 03-3437-6822

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

詳しくは、「パンフレット（契約概要）」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

AF104-2008-0124 4月18日